

第3節 白石構内(白石遺跡)の調査

1. 教育学部附属学校園案内板設置工事に伴う立会調査

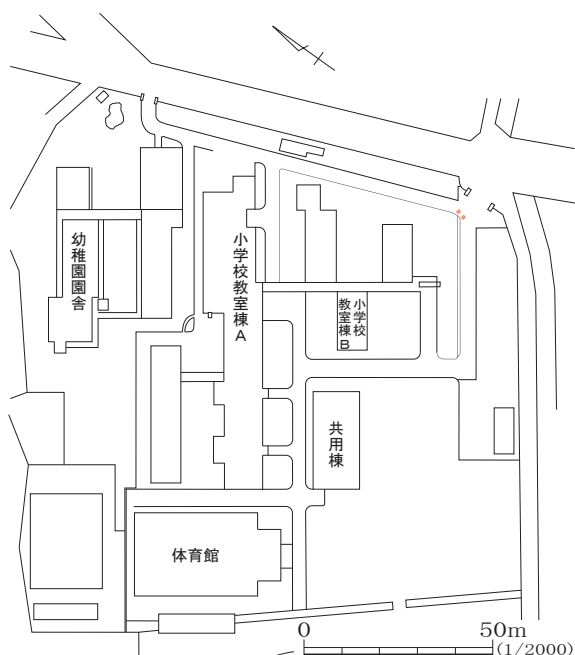


図23 調査区位置図



写真37 調査区全景 (東から)



写真38 調査区土層断面 (東から)

調査地区 白石構内小学校正門西側

調査面積 1㎡

調査期間 平成23年7月25日

調査担当 田畑直彦

調査結果 教育学部より、附属小学校西側に附属幼稚園・小学校の案内板設置工事計画が提出された。工事予定地周辺は昭和61年度の污水管布設に伴う試掘調査(第7トレンチ)で遺物包含層が検出されている。今回の工事は小規模であるが、埋蔵文化財が検出される可能性があることから、立会調査を実施することになった。

工事は平面形約20cm×約20cmの範囲を2箇所掘削するものである。調査の結果、現地表下約37cmまでが造成土で、以下約37～43cmで床土であるオリープ灰色(2.5GY6/1)シルト、約43cm～64cmで地山である明黄褐色(2.5Y6/6)シルトを確認した。調査面積が狭小であったこともあり、遺構・遺物は確認できなかった。しかしながら、床土が残存しており、地山が確認できたことで、周辺に遺構が残存する可能性が考えられる。以上から、今後も調査地周辺では埋蔵文化財の保護に注意が必要である。

【註】

- 1) 河村吉行・杉原和恵(1987)「第2章 亀山構内教育学部山口附属学校污水管布設に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報VI』, 山口

2. 教育学部附属幼稚園渡り廊下屋根拡張工事に伴う立会調査

調査地区 白石構内幼稚園園舎南側

調査面積 約11.5㎡

調査期間 平成23年8月3日

調査担当 田畑直彦

調査結果 附属幼稚園渡り廊下屋根工事に伴い、立会調査を実施した。工事では、廊下の屋根の基礎4箇所で行われた。A地点は平面形約150cm×約150cmである。層序は現地表下65cmまでが造成土、以下約65～80cmは黒褐色(2.5Y3/1)シルトであった。B地点は平面形約150cm×約150cmである。層序は現地表下88cmまでが造成土で、以下88cm～94cmが旧耕土である暗青灰色(5B4/1)シルト、約94～118cmが黒褐色(2.5Y3/1)シルトであった。C地点は平面形約200cm×約150cmである。層序は現地表下95cmまでが造成土で、以下部分的に掘り下げたところ、現地表下95～115cmが黒褐色(2.5Y3/1)シルトであることを確認した。D地点は平面形約200cm×約200cmで現地表下約100cmまで掘削を行ったが、全て造成土の範囲内であった。

A～C地点で検出した黒褐色シルトは遺物包含層で、弥生土器もしくは土師器と考えられる土器片が各地点から1点出土した。今回調査区の東側では、平成元年度に污水管布設に伴う発掘調査の際、造成土直下で「黒褐色・黒色粘質土」の河川堆積土^{註1}が確認されていることから、今回調査区にも黒褐色シルトは平成元年に検出された河川の堆積土であった可能性がある。以上から、今後も小規模な土地掘削が行われる場合でも、工事立会を実施し、地下情報を蓄積する必要があるだろう。

【註】

1) 古賀真紀子・河村吉行(1991)「第3章 亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校污水管布設に伴う発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報 IX』, 山口

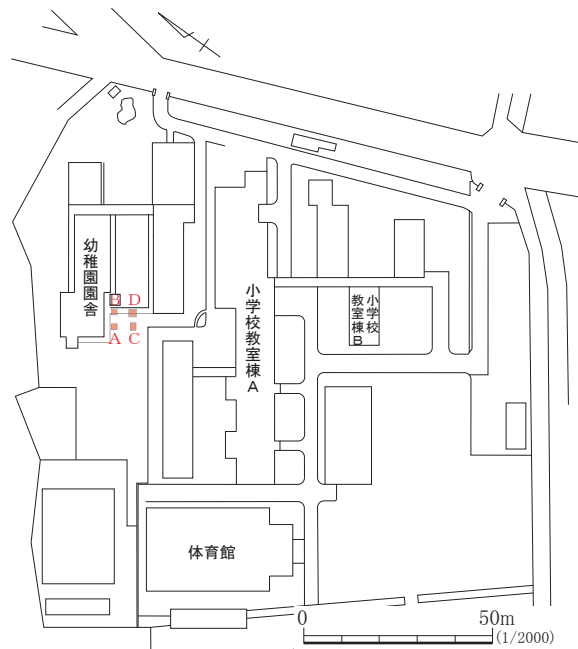


図24 調査区位置図



写真39 B地点土層断面(北から)



写真40 C地点土層断面(南東から)